雨水貯留浸透のススメ 2009

～うるおいのある都市をめざして～

社団法人 雨水貯留浸透技術協会

ご　挨　拶

社団法人 雨水貯留浸透技術協会
会　　長　　高　　橋　　裕

本協会は、昭和61年度技術評価課題「浸透型流出抑制施設の開発」において、建設大臣技術評価書を交付（昭和63年8月23日）された民間12社が中心となり、評価を頂いた技術を普及させる目的で平成元年に任意団体の「雨水貯留浸透技術協会」を発足致しました。その後河川局においても都市型水害の対応など雨水貯留浸透技術の普及に力をいれる必要性を鑑み、河川局の設立許可を頂き、平成３年４月３日に公益法人として「社団法人雨水貯留浸透技術協会」が設立されました。

会員はメーカ、ゼネコン、建設コンサルタント等の正会員30社、賛助会員43社と国出先機関や地方自治体等の特別会員60団体で構成されています。

当協会では、以下の４つの柱を立て、これまで一貫して雨水貯留浸透技術の普及に努めてまいりました。この間、雨水貯留浸透技術は治水対策のみならず、潤いのある街づくりの実現に貢献し、水循環系の再生、保全に資する技術であるとの認識が高まってまいりました。

第一　調査･研究：普及の基礎となる指針･手引き等の整備を目的とした調査・研究や水循環系の改善のための計画手法についての検討

第二　技術指針等の整備：「雨水浸透技術指針(案)調査･計画編」、「同(案)構造･施工･維持管理編」、など技術の普及の基礎となる技術指針、手引き書、製品便覧、事例集等の刊行

第三　評価・認定：雨水貯留浸透に関する製品・工法の技術評価認定の実施

第四　普及と啓発：講習会、見学会の開催、季刊誌「水循環 貯留と浸透」の発刊、出展、出前講座、学会発表、国際交流など

当協会といたしましては、今後、都市の水循環再生のための雨水貯留浸透技術の活用と啓発・普及を一層進めていく所存です。本冊子が、その一助となり、雨水貯留浸透技術に対する皆様方の理解を深め、業務のお役に立たせて頂ければ幸に存じます。

index

◆ 雨水貯留浸透のススメ　うるおいのある都市をめざして……1
◆ 社団法人 雨水貯留浸透技術協会について……7
◆ 調査研究の実績／技術評価認定制度／出版物……8
◆ 評価認定一覧／入会のご案内／お問い合わせ先……9
◆ 会員一覧……10
◆ 正会員 PR……11
◆ 賛助会員 PR……17

雨水貯留浸透のススメ　うるおいのある都市をめざして・・・

1.はじめに

近年、地球規模の気候変動の影響とされる想定を超えた豪雨等の頻発化により災害が多発し、治水事業において流域対策の重要性が一層高まってきています。また、都市河川の流域では、都市型水害の多発に加え、ヒートアイランド現象、湧水の枯渇、地下水位の低下などの水循環系の悪化に起因する課題も顕在化してきています。

これまで、総合治水対策流域等における雨水貯留浸透施設の整備は、公共空間（公園、学校等）や新規開発地での貯留施設の設置を中心に整備が行なわれてきました。一方、浸透施設は、流出抑制の効果が定量的に評価しづらいこと等から、必要性を認める地方公共団体の限られた取り組みとしての整備に止まっている状況にあります。

将来的な気候変動の影響に対応し、新規開発地のみならず、既成市街地においても流域対策を積極的に進めるためには、公共用地や民有地において可能な限り雨水を流出させないための雨水貯留浸透施設を整備していく必要があります。

雨水の貯留・浸透及び関連製品が、世に出て既に 30 年ほど経っていますが、現状の課題を認識した上で、今後改善・改良していかなければならないポイントについて紹介します。

2.貯留・浸透・関連製品について

雨水貯留浸透には、①雨を一時的に貯留してできるだけゆっくり流したり、またせっかく貯めた雨水を流してしまうのはもったいないので貯めた雨水を利用する「貯留」という手法、②雨を地中にしみ込ませ地下水とし、できるだけ下水道や河川に直接流さない「浸透」という手法があります。

貯留施設には、大きいものでは開発指導などによってよく設置される「調整池」、地下に設置される大口径の「雨水貯留管」、コンクリート製の「プレキャスト式地下貯留槽」、「地下空隙貯留槽」、中小規模なものに、公園・校庭・駐車場での表面貯留、建物間の棟間貯留などがあります。

地下空隙貯留には、従来よく用いられた砕石（空隙率 30～40%）に替わって、空隙率 90%以上を持つプラスチック製の小さな貯留材を人力にてレゴブロックのように積み上げて数十～数千 m^3 の貯留（浸透）槽を造り上げる各種工法が近年普及しています。

雨水利用については、100 ﾘｯﾄﾙ～1000 ﾘｯﾄﾙ程度まで、形の様々な雨水タンクが市販されています。変わり種として、下水道への接続に伴い不要になった浄化槽を雨水タンクに利用する場合もあります。

代表的な浸透施設には、穴のあいた「桝」、「パイプ」、「側溝」、「人孔」の周辺を砕石などで巻き込んだものに、集水した雨水を導いてその側面・底面から地中に浸み込ます「浸透ます」、「浸透トレンチ」、「浸透側溝」、「浸透マンホール」や、文字通り池底から浸透させる「浸透池」、また雨水を直接透水性のある舗装表面から路盤、路床へと浸透させる「透水性舗装」などがあります。

関連製品として、目詰まり防止装置としての各種フィルター類、透水シート類、ます蓋類、取水継手等があります。

図-1 戸建住宅における活用例

3.現状の課題と改善点

1）貯留施設

一般に、貯留施設は一定の計画洪水量（一山波形）に対して、下流の許容放流量以下にオリフィス等で絞って流すことができるように、その貯留容量が決定されます。

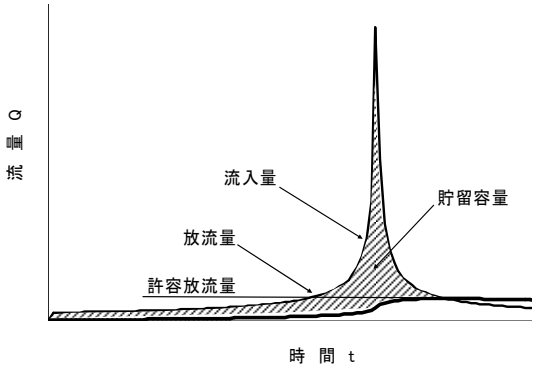


図-2 貯留施設の洪水調整機能

これは、計画規模を越える降雨や先行降雨がある二山降雨に対しては、貯留容量がパンクしてピークカット量がゼロとなったり、中小洪水では下流放流量は守ることが出来ますが、貯留容量のすべてを使い切っておらず、効率的ではありません。

特に流域に分散して設置されるオンサイト型の貯留施設は、比較的容量が小さいので、超過洪水に対しては流出抑制効果が小さい施設となっているかもしれません。

したがって、初期の許容放流量以下の流入量については、速やかに放流し、許容放流量を超えた流入量やできるだけピーク時に近い洪水量を貯留槽に溜め込むことができる工夫や施設構造が望まれます。

図-3 は、標準的な地下貯留施設の一例であるが、流入部及び放流部を**図-4** に示す構造に変更することで、初期の早い段階から許容放流量に近い流量を放流することが可能となり、**図-2** の許容放流量以下の初期貯留分が少なくなるため、貯留容量に余裕が生じることになります。

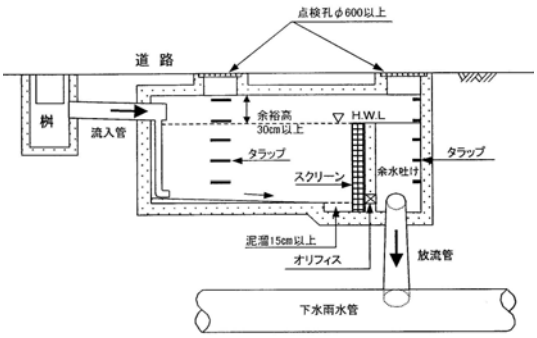


図-3 地下貯留槽の構造例

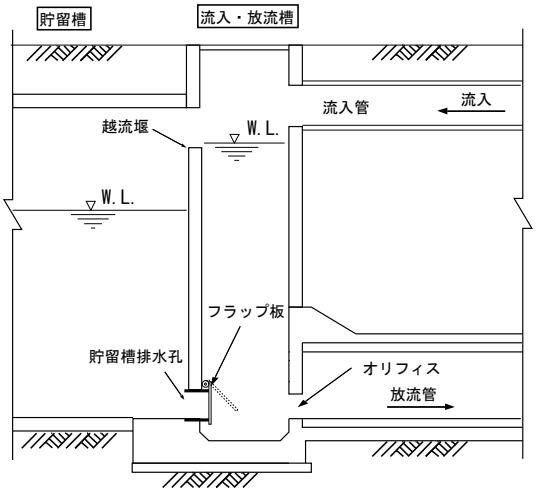


図-4 流入･放流槽の改良案

2）浸透施設

一般に、貯留施設に比べ浸透施設の方が全国的に普及していません。その理由として、下水道分野において長年浸透に取り組んできた藤田昌一は「浸透の不確実性が根底にあり、はっきりしないものに対してお金を出しにくいから、積極的に浸透を推進しない。推進しないからその効果が分からないという悪循環の状況に陥っている」と指摘しています。また、浸透施設の設置を推進しない個別・具体的な理由として以下の５項目をあげています。

①統一した技術指針がなく、確実性に欠ける、②効果が分からないので、保証できない。また、目詰まりによる効果の持続性が問題となる、③設置後のモニタリングをしていない、④設置した施設を誰が維持管理するのかが明確でない、⑤設置や維持管理に対してのコスト負担のあり方が明確でない。全てを肯定するわけではありませんが、指摘は概ね妥当と考えられます。

平成 20 年度に 17 の総合治水特定河川流域内の 149 市町村（特別区含む）に対し、雨水浸透施設の整備状況や課題を把握するためにアンケートを行い 85 の自治体から回答がありました（回収率 57%）。

回答のあった自治体の約 9 割において、雨水浸透施設が導入されています。設置の目的は、流出抑制（6 割）が一番多く、続いて地下水涵養（2.5 割）で、その他にヒートアイランド対策や汚濁負

荷削減があげられています。また、設置されている浸透施設は、透水性舗装、浸透トレンチ、浸透ますがほぼ同じ割合で、全体の 7.5 割を占めており、この他に浸透井戸や浸透池も設置されています。浸透施設を導入していない自治体は、「実績がない」ことを一番の理由としていますが、「効果が分からない」ものに「財政負担ができない」ことが真の理由でないかと推察されます。また、導入している自治体においては、大半が開発指導要綱や開発条例により浸透施設の設置指導を実施しているケースが多いため、既成市街地での浸透施設の設置は進んでいません。以上のことより、浸透施設については維持管理を含め、如何に目詰まりに対して、長期的な機能確保ができるかということと、既成市街地で如何に普及を進めて行くかが課題となっています。

側面及び底面から浸透させる構造を持つ雨水浸透ますは、その流入水が屋根雨水を受ける場合は、長期的に渡って浸透機能が維持されています。しかし、路面排水等を受ける浸透施設は、目詰まりにより機能低下が大きな問題となっており、施設の機能担保を如何に考えるかが、普及の促進に繋がります。浸透施設の目詰まりは、雨水流出水に含まれる SS 分が浸透面を閉塞させて起こります。その際、昭島つつじが丘ハイツの浸透トレンチの掘り起こし調査（**図-5**）のように、SS 分が重力沈降によって徐々に底面に堆積すると考えられます。したがって、長期間の供用後には底面からの浸透分はゼロと見なすことで、浸透施設の浸透量の終局値とすることを提案します。

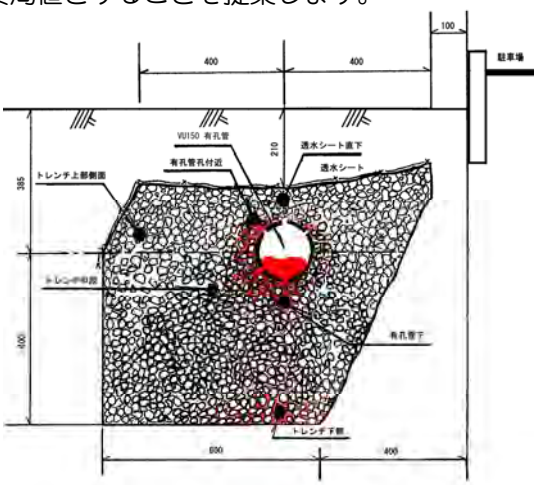


図-5 浸透トレンチ内に侵入した土砂等の分布概況図
（昭島つつじが丘ハイツ 20 年経過）

底面および側面からの浸透させる浸透施設において、全浸透量に対する底面浸透量の割合は、設計水深を浸透施設の直径（桝タイプ）又は幅（トレンチタイプ）の 2 倍以上とるならば、2～3 割となります。したがって、そうした構造の浸透施設を規格化することにより、路面排水などの懸濁物質を多く含んだ雨水排水を受け入れる浸透施設の目詰まりによる機能低下率（底面浸透ゼロ）を 0.3 と考え、初期浸透能力の 0.7 を終局値とします。

一方、既成市街地にて浸透施設を如何に普及させていくかに関しては、都市の水循環改善の観点から普及を進めていくべきです。多くの自治体において、浸透施設の設置目的を流出抑制（治水目的）としているため、住民にとって理解が得られにくい状況にあります。また、自治体においても貯留施設に比べ流出抑制効果が分かりづらく、計画論に明確に位置付け難いと考えているケースが多いようです。市川市において、治水目的より地下水涵養による湧水の保全・再生を全面に押し出して条例化を勧め成功した事例に見られるように、今後は水循環系の再生の観点から先ずは浸透施設の設置を推進していくべきです。そうすることにより、浸透施設がなかなかピークカットに効かないという呪縛から解放されると考えます。

そうした考え方に従い、浸透施設による効果の見方についてもピークカット率よりも、総量の減少をみる補足率（又は 1-流出率）にてその効果を評価する方が良いと考えます。時間雨量等の洪水を検討対象にする流出抑制目的で浸透施設を設置する場合は、10mm/hr 以上の浸透強度を目標とすることもあります。しかしながら、水循環系の再生（湧水量・河川平常流量の流況改善）を目的とする場合は、年間雨量に対する浸透施設の補足率が効率上問題となります。補足率は当然地域毎の降雨特性によって変わってきますが、一例として柳瀬川流域においては、2mm/hr 程度補足すれば年間総雨量の 50%以上は浸透できる(図-7)ので、流域平均 2mm/hr 程度の浸透強度を確保することによって、流況改善には一定の効果があると考えられます。よって、戸建住宅等に設置する際には 5mm/hr（浸透ます 1～2 個）を目標に設置することが一つの目安となります。（浸透施設の普及率

や・浸透施設の設置適地等を考慮すると、戸建住宅等に 5mm/hr の施設を目標に設置することで、流域全体の平均浸透強度 2mm/hr が確保できると考えられます。）

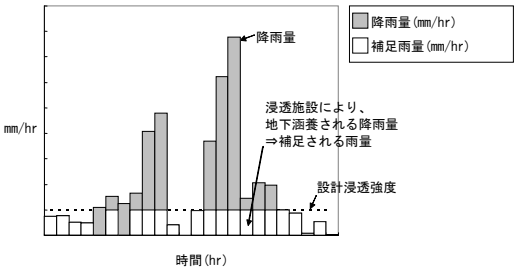


図-6 浸透施設による降雨の補足

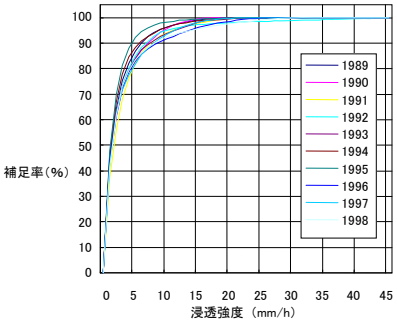


図-7 年間総雨量に対する補足率（柳瀬川流域）

しかしながら、既成市街地においては敷地に余裕がないため、従来の浸透ますさえも設置できないケースがあるので、**図-8** に示すような小型化した浸透ますを設置することで、狭い敷地にも対応させる必要があります。

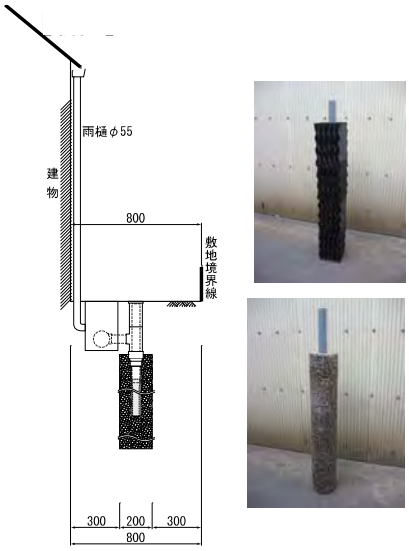


図-8-1 浸透ますの小型化案(新設)

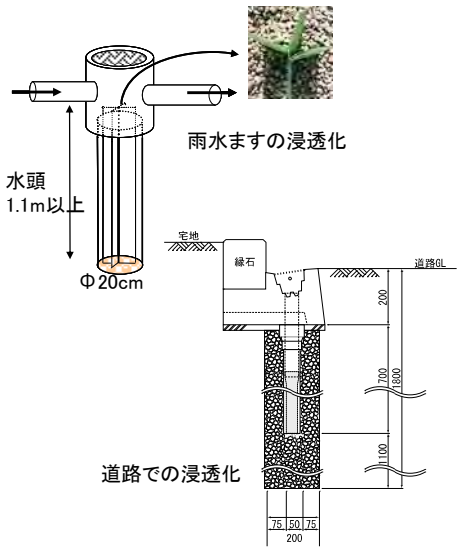


図-8-2 浸透ますの小型化案(既設改良)

3)　雨水利用について

近年、洪水や浸水、渇水、防災への備えとして、雨水タンクに助成を行っている自治体が増えてきていますが、その容量は 100 ﾘｯﾄﾙ～1000 ﾘｯﾄﾙと比較的小さいため、降雨の初期段階において満杯となり、流出抑制効果を発揮しているとは言えないのが現状です。雨水タンクを雨水利用槽と流出抑制槽に分割し、分水装置により降雨強度が大きくなった時点で流出抑制槽に流入させる構造とすることで、流出抑制を図ります。一方、雨水利用槽には取水継手により雨水を流入させ、利用槽の HWL に達すると流入しないでそのまま流下していく構造とします。また、浸透適地の場合は浸透ますも設置します。

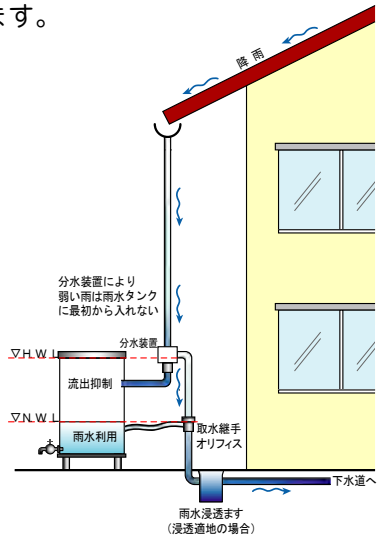


図-9 ピークカット可能な雨水利用タンク案

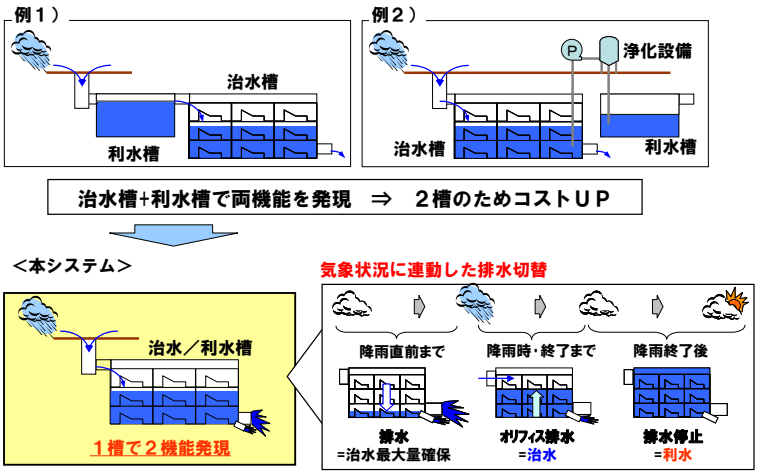


図-10 気象連動型雨水貯留槽

近年の気候変動により、雨の降り方が変化して、梅雨期から秋雨期にかけて降雨量が増加し、冬期から春期にかけて降雨量が減少すると予測されています。このため洪水対策だけでなく雨水の有効利用の必要性が増加していくと考えられます。

現在、洪水対策としてオンサイト型の貯留施設が多数建設されていますが、洪水対策のみの施設であり、水循環系の健全化や水の有効利用に資する施設とはなっていません。貯留施設（治水専用槽）は降雨前に空であることが前提で、流入水を常に排水する構造となっており、今後は水環境の健全化や雨水の有効活用を図るべく、治水と利水とを１つの貯留槽で同時に達成可能な、気象情報に連動して貯水量を調整する方式が注目されています。

雨水は、量･質とも変動性が大きく利用の観点からは水源としての安定性が脆弱です。このため、補完水源として適切な地下水涵養を促進し、地下水を適正利用する技術開発にも着目する必要があります。現在、雨水は雑用水の一部と見なされていますが、両者の定義を明確にし、利用用途に応じた雨水の水質基準や人工涵養する際の水質基準の検討が必須です。

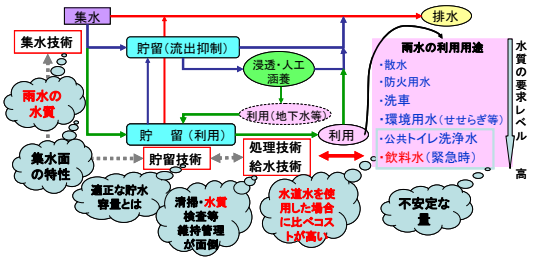


図-11　雨水利用システムの課題

そのためには、雨水の原水や集水・貯留過程での水質データを体系的に調査する必要があります。また、雨水の貯留・浸透・利用を適宜組み合わせた一連の都市域の雨水利用システムを確立する必要があります。

4）プラスチック製地下貯留浸透施設

空隙率 90％以上を有するプラスチック製の小さな貯留材を用いて構築するプラスチック製地下貯留浸透施設が、**図-12** に示すとおり急速に普及しています。

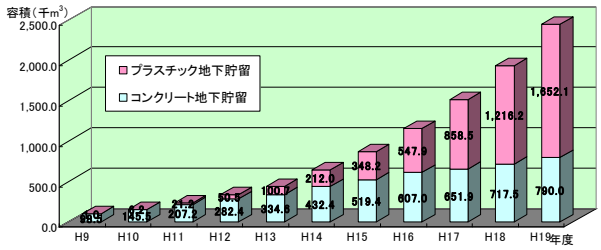


図-12 地下貯留(浸透)施設の施工実績(容量累計)

本技術については、平成 20 年度に技術指針が策定されていますが、施工実績の増加に伴って不適切な設計や施工による不具合事例（過積載、水圧・浮力や埋戻し方法に対する検討不足）も散見されます。設計・施工条件を熟慮の上、コンクリート構造物との組み合わせ等、今後検討する必要があると考えています。

5）道路における雨水の貯留・浸透・利用について

国土交通省水資源部の調査によれば、2005 年度末における雨水・再生水を利用している施設数は 3,047 で、その年間利用量は約２億７千８百万 m^3 です。雨水に限って見るならば、施設数は

1,243 と多いが､利用量は約 7 百万m^3と極端に少ないです。このように、雨水の年間使用量は、全国で使われる生活用水量のわずか 0.05%程度に過ぎず、地域的にも偏りがあり、全国的に普及しているとは言えないが、屋根雨水を対象とした小規模な雨水タンク(0.1m^3～1m^3程度)等に対しては、地方自治体による助成（墨田区は数十 m^3）も行われ、徐々に普及する機運にはあります。

これに対し、都市域において年々占める割合が高くなっている道路については、雨水を貯留したり、浸透させたり、更に利用することに関しては端緒についたばかりで、欧米に比して普及が遅れています。密集市街地では、20%以上の占有面積をしめる道路において、新たな雨水管理手法（流出抑制：水量・水質）や雨水利用技術を開発することが、気候変動に伴う豪雨や渇水のリスク軽減に資するものと考えます。

4.おわりに

近年の気候変動に伴う異常豪雨の頻発を考えれば、都市型水害対策は非常に緊急性を要するものであり、また都市の水循環の変化に伴う様々な不都合な水問題を考慮するならば､雨水を貯めたり、浸み込ましたり、利用したりして地域全体で雨水をゆっくり流す更なる技術開発や制度的仕組みが必要です。また、低成長時代に入って久しい現在、1 つの事業目的に対して集中的に財政投資することよりも、長期的なまちづくりの視点からみんなで取り組むことができる雨水の貯留・浸透・利用を段階的に進めていくことが、トータル的に安上がりなると考えます。

今後とも、より安全・安心な雨水貯留・浸透・利用技術の普及・開発に取り組んで参ります。

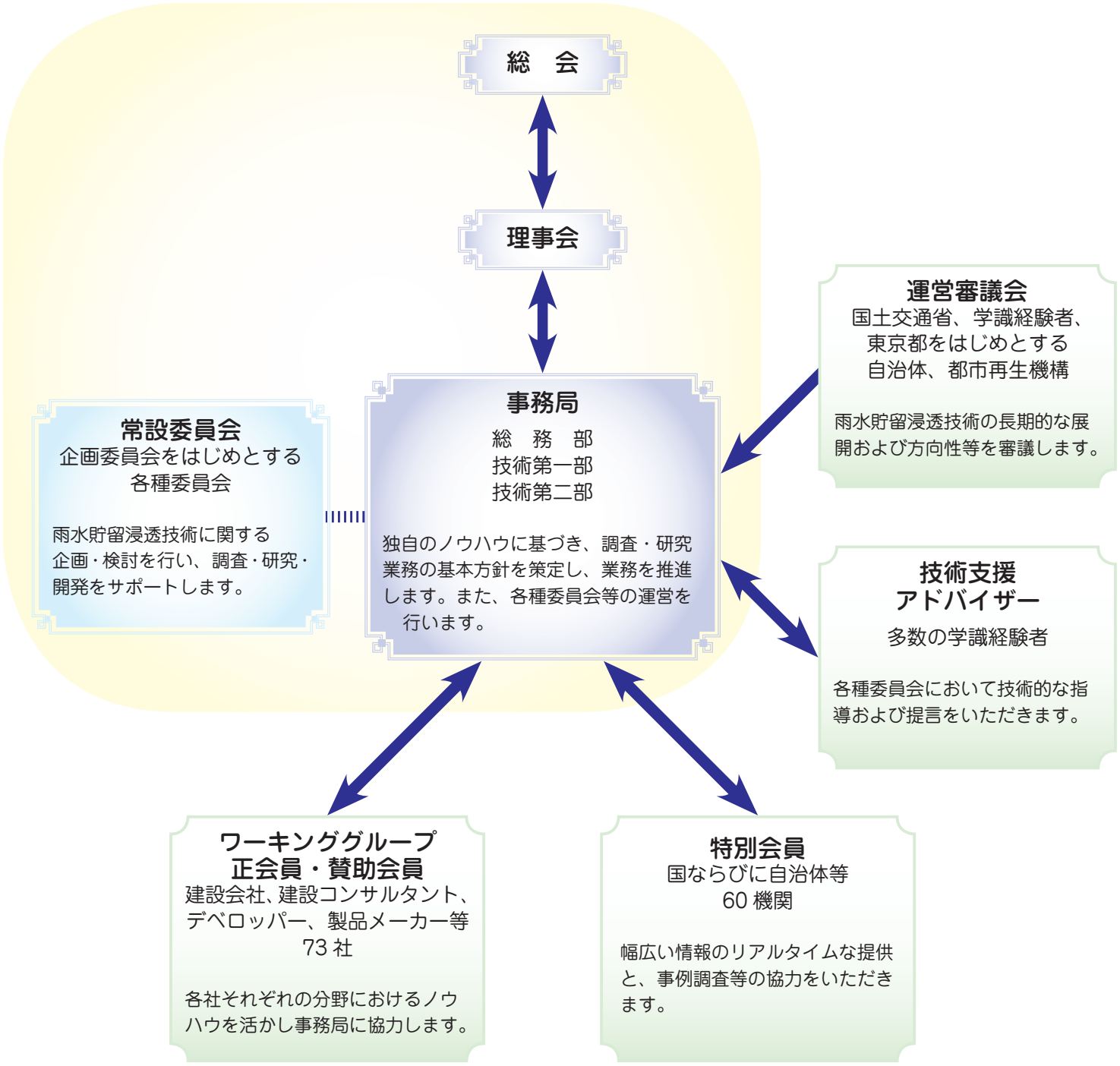
表-6 雨水の貯留浸透に関係する国の支援制度

事業名	目的・内容	採択基準概要	補助率
流域貯留浸透事業	学校、公園等の施設又はその敷地を貯留浸透機能を持つ構造とする工事、既成市街地の個人の住宅の敷地等に浸透ます、浸透トレンチ等を設置する工事のほか、宅地開発に伴い設置された暫定調整池や流域に存在する自然の池、沼、溜め池のうち潜在的に顕著な治水機能を持つものを恒久的な調節池として活用するための改良工事などを実施し、河川流域における雨水流出抑制を図る。	1. 対象流域 一級河川または二級河川の流域内 2. 事業主体 地方公共団体または(独)都市再生機構 3. 対象工事 1) 500m^3以上（総合治水特定河川等にあっては 300m^3以上）の貯留・浸透機能をもつ構造とするもの 2) 既成市街地内の個人の住宅敷地内等に、貯留・浸透機能をもつ簡易な施設を設置する事業で、当該河川流域内の施設を合わせた規模・能力が 1)と同等となるもの 3) 新規住宅開発における対象施設を一団地内において合計した規模・能力が 1)と同等となるもの 4) 既設の暫定調節池、池沼又は溜め池において、3,000m^2以上（総合治水特定河川にあっては 1,000m^3以上）の容量を確保するため、堰堤の嵩上げ等を行うもの	1/3
新世代下水道支援事業制度（水環境創造事業）	近年、下水道の役割として従来の排水の処理に加え、良好な水循環の維持・回復、リサイクル社会構築への貢献、情報化社会への対応等、新たな役割が求められている。新世代下水道支援事業制度は、こうした課題に積極的に対応することを目的とした制度で、水環境創造事業、リサイクル推進事業、機能高度化促進事業、雨に強い都市づくり支援事業の４事業から構成される。水環境創造事業において、①雨水貯留浸透機能を有する管渠等の設置、②不要浄化槽転用・雨水貯留浸透施設設置者に助成する自治体への助成が規定されている。	・雨水対策の必要な地域、又は良好な水循環の維持・回復のための地下水涵養が必要な地域 ・水質保全のため合流式下水道の越流対策が緊要で、かつ雨水の流出抑制が必要な地域	①1/3 ②助成額の1/2（総費用の 1/3 を限度）
まちづくり交付金制度	市町村が作成した都市再生計画に基づき実施される事業等の費用に充当するために交付する交付金である。 ①都市再生整備計画の作成 市町村は地域の特性を踏まえ、まちづくりの目標を実現するために実施する各種事業を記載した都市再生整備計画を作成する。 ②交付金の交付 国は市町村が作成した都市再生整備計画が都市再生基本方針に適合している場合、年度毎に交付金を交付。 ③事後評価 国は、交付期間終了時、市町村に目標の達成状況等に関する事後評価を求めることとし、その結果等についてチェックし公表。	都市整備計画に位置づけられたまちづくりに必要な幅広い施設等を対象。 ・道路、公園、下水道、河川、多目的広場、修景施設、地域交流センター、土地区画整理事業、市街地再開発事業等。 ・地域優良賃貸住宅、公営住宅、住宅地区改良事業等。 ・市町村の提案に基づく事業 ・各種調査や社会実験等のソフト事業	概ね 40%
地域住宅交付金制度	地方公共団体が事業間・年度間で交付金の充当率を自由に調整できるよう使い勝手を向上するとともに、地方公共団体が地域の実情に応じて独自に実施しようとする取り組みを支援し、もって地方公共団体が行政区域等地域全体における総合的な住宅政策を推進することを目的とし、地方公共団体が作成した地域住宅計画に基づき実施される事業の費用に充当する交付金である。	交付対象事業は、計画に基づく公的賃貸住宅の整備、これに関連する公共施設等の整備に関する事業等。 ①基幹事業 ・公営住宅建設等事業、住宅地区改良事業、住宅市街地基盤整備事業（前記事業に関する公共施設整備） ②提案事業 地方公共団体の提案に基づく地域の住宅政策の実施に必要な事業等	概ね 45%
住宅市街地基盤整備事業	住宅及び宅地の供給を促進することが必要な三大都市圏の重点供給地域等における住宅宅地事業及び既存の住宅ストックを有効活用するための住宅ストック改善事業の推進を図るため、基幹的な公共施設整備と併せて居住環境基盤施設整備、鉄道施設整備等の、住宅宅地事業及び住宅ストック改善事業に関連する公共施設等の整備を総合的に行う。	①土地有効活用・居住環境整備タイプ 住宅宅地事業に関連して緊急に整備することが必要な公共施設の整備に関する事業で、その実施により住宅宅地事業の隘路が打開される等住宅宅地事業の推進に効果があるものであること。 ②団地再生タイプ 住宅ストック改善事業の目的達成に資する公共施設の整備に関する事業であって、その実施により良好な居住環境の形成に効果があるものであること。	1/3
優遇税制	税制上の特例措置 ・（国税）所得税･法人税の割増償却 ・（地方税）固定資産税の課税標準の特例(特定都市河川流域に限る。)		

社団法人 雨水貯留浸透技術協会について

社団法人 雨水貯留浸透技術協会は、平成 3 年 4 月の設立以来、雨水貯留浸透技術の調査、研究および開発を通して「健全な水循環系の確保」などにかかわる、水循環再生、総合治水等の事業の調査から計画策定、事業化検討まで、高度な技術力と幅広い人脈で、強力にサポートします。

組織・推進体制



調査研究の実績

水循環関連
・柳瀬川流域水循環マスタープラン策定（国・東京都・埼玉県・流域自治体等）
・水循環系における地下水の評価手法検討（国）
・六角川総合水管理－望ましい水循環形成に向けて（国）
・水循環再生行動計画策定：神田川（東京都）、海老川（千葉県）、和泉川（横浜市）等
・流域づくり / 水循環再生構想策定：江川（埼玉県）、真間川（千葉県）等

総合治水関連
・雨水浸透施設の設置基準等の調査（国）
・流域内住民等による雨水貯留浸透施設の設置促進方策検討（国）
・都市防災の向上に資する調整池等の整備手法に関する調査（都市再生機構）
・「特定都市河川浸水被害対策法」施行に伴う基礎調査（町田市）雨水浸透調査（市川市）

宅地開発に伴う貯留浸透施設関連
・雨水貯留機能を有した舗装技術に関する実験解析（国土技術政策総合研究所）
・伊奈町福祉センター貯留浸透施設導入計画（茨城県）
・宅地開発に伴う雨水排水計画の手引きの策定（千葉県）
・葛城・萱丸地区雨水排水計画指針等策定（茨城県、都市再生機構）
・雨水浸透貯留施設の 20 年経過における流出抑制効果に関する研究（都市再生機構）

技術評価認定制度

本制度は、民間における雨水貯留浸透技術の研究開発を促進するとともに、雨水貯留浸透技術の建設事業への適正かつ迅速な導入を目的として平成８年６月にスタートしました。
平成21年9月1日現在までに20件の技術評価認定を行ってきました。

出　版　物

当協会においては、雨水貯留浸透施設の設置にあたって必要となる各種技術指針、マニュアル、事例集等、並びに水循環再生や雨水利用に関する参考図書を発刊しております。
また、雨水貯留浸透技術の向上と普及を目的とした季刊誌「水循環 貯留と浸透」を年４回発刊しております。

増補改訂
雨水浸透施設技術指針［案］
調査・計画編

増補改訂
雨水浸透施設技術指針［案］
構造・施工・維持管理編

増補改訂
流域貯留施設等技術指針［案］

雨水貯留浸透施設総覧

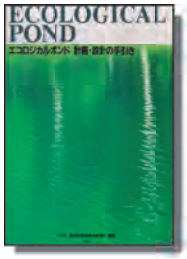
雨水貯留浸透施設
－製品便覧－

都市の水循環再生に向けて

都市域における水循環系の定量化手法
－水循環系の再生に向けて－

コミュニティポンド
計画・設計の手引き

コミュニティポンド
整備事例集



エコロジカルポンド
計画・設計の手引き

雨水利用ハンドブック

戸建住宅における
雨水貯留浸透施設設置マニュアル

雨水貯留浸透施設の設置に関する
支援措置のご案内

雨水浸透施設
普及促進策の提案

季刊誌
「水循環　貯留と浸透」

評価認定一覧

技術評価認定

① 株式会社 林物産・株式会社 シンシンブロック	：シンシンブロック槽
② 株式会社 日東	：NT 式Ⅰ型雨水貯留槽
③ 株式会社 環境企画 21	：発泡スチロール地下貯水工法
④ 大同コンクリート工業 株式会社	：シントール BOX2000
⑤ 平成技研 株式会社	：リングサイクル工法
⑥ 東急建設 株式会社 タキロン 株式会社 株式会社 明治ゴム化成 三菱商事プラスチック 株式会社	：アクアプラ工法
⑦ 株式会社エコマック	：エコマックス工法
⑧ 株式会社 佐藤渡辺	：パーミアコン・パーミアストーン
⑨ 積水テクノ成型 株式会社	：クロスウェーブ工法
⑩ エバタ 株式会社	：システムハニカム工法
⑪ JFE 建材 株式会社	：エコロウェーブ工法
⑫ 秩父ケミカル 株式会社 三甲 株式会社	：ニュートレンチ工法
⑬ 東洋ゴム工業 株式会社	：TUTT 工法
⑭ 株式会社 トーテツ	：セル型構造地下貯水槽
⑮ 株式会社 ブリヂストン	：ジオボックス工法
⑯ ミクニプラスチックス 株式会社	：MA-1 工法
⑰ 松岡コンクリート工業 株式会社	：ハニカムボックス工法
⑱ 平和コンクリート工業 株式会社	：ポカラ式雨水地下貯留施設
⑲ 古河電気工業 株式会社	：ハイドロスタッフ R 工法
⑳ 秩父ケミカル 株式会社・天昇電気工業 株式会社	：プラダム工法

技術評価認定（OEM）

① 古河電気工業 株式会社・株式会社 林物産	：ハイドロスタッフ

雨水貯留浸透製品技術評価認定（簡易製品評価）

① 株式会社 トーテツ	：ぶんりゅうⅡ型
② 雨水貯留浸透製品工業会	：シントーホール（鉄蓋含む）

技術推薦

① 鶴見コンクリート 株式会社	：ツルミ式遊水池
② 積水化学工業 株式会社	：レインステーション工法
③ 株式会社 林物産	：シンシンブロック槽（542 型、720-2N 型）
④ エバタ 株式会社	：システムパネル、パネケープ
⑤ リス興業 株式会社・ クボタシーアイ 株式会社	：スタジアム

入会のご案内

会員の種別

当協会は、雨水貯留浸透にご関心のある様々な企業・団体・個人の方々の入会を歓迎いたします。

1. 正会員　：雨水貯留浸透施設に関する事業に携わる法人又は団体で、正会員２名以上の推薦が必要（入会金・年会費の納入）
2. 賛助会員　：本協会の事業を賛助すると認められる法人又は団体（年会費の納入）
3. 特別会員　：本協会の事業に関係のある個人若しくは団体（季刊誌購読料の納入）

会員の特典等

1. 協会内の各種委員会活動、研究会への参画（正会員）
2. 季刊誌「水循環　貯留と浸透」の配布
3. 講習会、見学会等の協会事業への優先的参加
4. 会員名簿への記載、HP での紹介、会員標記の許可
5. 優先的技術相談
6. 調査・研究・開発等の受託事業への参画（正会員）

入会方法

先ずは事務局までご相談ください。入会申込書を郵送します。
入会申込書の到着後、理事会の審査により入会承認が決定されます。

入会の申し込みや技術的な相談などについては、下記までお気軽に声をおかけください。

お問い合せ先

社団法人 雨水貯留浸透技術協会 総務部／橘　技術第二部／屋井（おくい）
〒102-0083　東京都千代田区麹町 3-7-1
TEL　03-5275-9591（代）　／　FAX　03-5275-9594
E-Mail　info@arsit.or.jp　／　URL　http://www.arsit.or.jp

会 員 一 覧

【正会員】

*株式会社 アイ・エヌ・エー	03-5959-2508
*いであ 株式会社	03-4544-7600
*株式会社 エイト日本技術開発	03-5341-5111
*エバタ 株式会社	03-3600-1522
*株式会社 協和エクシオ	03-5778-1043
*共和技術 株式会社	03-5960-3821
*共和コンクリート工業 株式会社	03-3943-4371
株式会社 建設環境研究所	03-3988-1818
*株式会社 建設技術研究所	03-3668-4494
*株式会社 シグマ開発計画研究所	03-5282-7471
清水建設 株式会社	03-5441-0636
*積水化学工業 株式会社	03-5521-0552
太平洋セメント 株式会社	03-6226-9072
*タキロン 株式会社	029-828-1804
*秩父ケミカル 株式会社	03-3832-1617
*鶴見コンクリート 株式会社	045-503-8001
東急建設 株式会社	03-5466-5149
*株式会社 東京建設コンサルタント	03-5980-2633
株式会社 ドーコン	011-801-1530
戸田建設 株式会社	03-3535-1616
*日本工営 株式会社	03-3238-8046
日本ヒューム 株式会社	03-3433-4114
パシフィックコンサルタンツ株式会社	03-3344-0835
*羽田コンクリート工業 株式会社	03-5328-5124
*株式会社 ハネックス	03-3345-7831
*物林 株式会社	03-5534-3602
*株式会社 ホクコン	0776-38-3804
*丸栄コンクリート工業 株式会社	058-393-0700
*三井共同建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ 株式会社	03-3205-5740
三井住友建設 株式会社	03-5337-2132

【30 社】

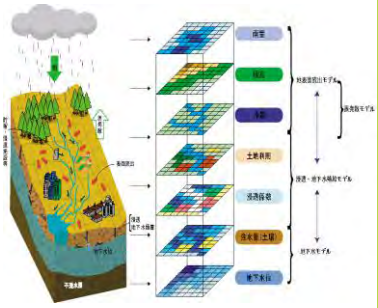
【賛助会員】

*有限会社 安藤電気製作所	042-923-0872
*雨水貯留浸透製品工業会	03-3600-1521
*株式会社 エコマック	0774-55-0449
SMC テック 株式会社	04-7152-1112
株式会社 オーイケ	0263-98-2238
大林道路 株式会社	03-3618-6532
*関西ポラコン 株式会社	06-6375-4001
株式会社 グリーンフィールド	04-7165-9900
*株式会社 佐藤渡辺	03-3453-7350
*株式会社 新日本コンサルタント	076-436-2111
世紀東急工業 株式会社	03-3434-2208
*積水テクノ成型 株式会社	06-6365-5472
株式会社 ソイルリサイクル工業	06-6998-7759
大成ロテック 株式会社	03-3561-7831
*地下貯水工法研究会	03-5491-7733
*中央開発 株式会社	03-3208-9913
天昇電気工業 株式会社	042-788-1555
*株式会社 トーテツ	03-3493-5911
東洋ゴム工業 株式会社	06-6330-5194
*株式会社 日東	049-283-5184
*日本雨水浸透施設工業会	045-959-5092
日本興業 株式会社	087-899-1172
日本水工設計 株式会社	03-3534-5514
株式会社 NIPPO コーポレーション	03-3471-8542
*株式会社 ハイクレー	0480-23-3809
*パスキン工業 株式会社	028-665-1621
*株式会社 林物産	03-3553-3000
日之出水道機器 株式会社	03-3585-2177
*有限会社 プラネッツ	049-233-9221
*株式会社 ブリヂストン	045-825-7538
*古河電気工業 株式会社	03-3286-3195
平和コンクリート工業 株式会社	
*株式会社 ホクエツ	022-235-2311
*北海道ポラコン 株式会社	011-251-4566
*ポラコン工業会	03-3303-0951
*松岡コンクリート工業 株式会社	0584-62-5007
*ミクニプラスチックス 株式会社	06-6395-4022
三井住建道路 株式会社	03-3357-9081
三山工業 株式会社	0489-36-0320
*株式会社 明治ゴム化成	03-5338-4693
*株式会社 ヤマックス	096-381-6644
*リス興業 株式会社	058-386-0050
リングサイクル工法協会	053-412-5266

【43 社】

*印は次頁(P11)より各社 PR を掲載させて頂きましたのでご覧下さい。

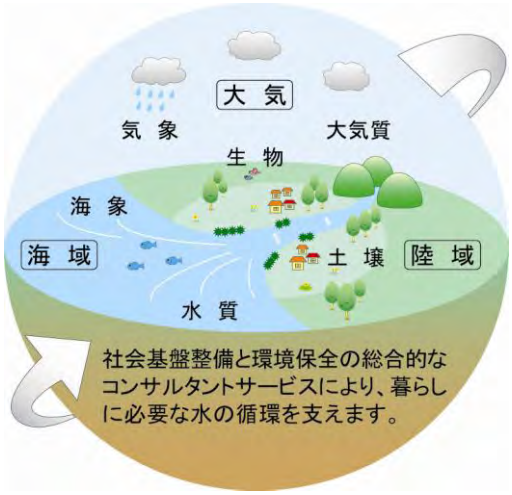
私たちアイ・エヌ・エーは、
水循環の健全における様々なシーンで
工学的見地～水文化的取組みによる
幅の広いコンサルティングサービスを
展開しています。



総合建設コンサルタンツ
株式会社 **アイ・エヌ・エー**

〒114-0003　東京都北区豊島　8-4-1
TEL(03)5959-2508　FAX(03)5959-2509
河川計画部　成田　t-narita@ina-eng.co.jp

社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント

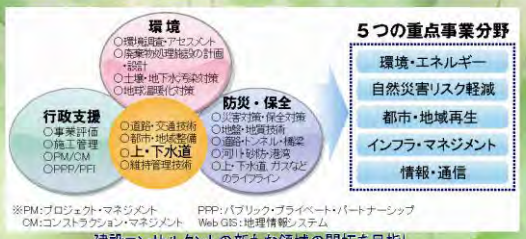


いであ株式会社

〒154-8585 東京都世田谷区駒沢 3-15-1
代表取締役会長　田　畑　日出男
代表取締役社長　入　江　洋　樹
TEL:(03)4544-7600　FAX:(03)4544-7700
URL: http://ideacon.jp/

～価値ある環境を未来に
インフラ・ソリューション・コンサルタントの挑戦～

地域レベルから地球規模に至る多様なニーズに対処すべく、英知を結集し、企業価値の向上に努めてまいります。



建設コンサルタントの新たな領域の開拓を目指し、
(株)エイトコンサルタントおよび日本技術開発(株)の建設コンサルタント事業を
2009年6月1日に統合し、新会社として新たにスタートいたしました。

株式会社エイト日本技術開発

本　店:〒700-8617
岡山県岡山市北区津島京町3-1-21
TEL(086)252-8917
本　社:〒164-8601
東京都中野区本町五丁目33-11
TEL(03)5341-5111
支　社:東北・東京・中部・関西・中国・四国・九州
支　店:札幌・北関東・横浜・神戸・和歌山・京都・鳥取・
松江・浜田・広島・山口・徳島・高松・高知・熊本

エバタ雨水貯留浸透製品
本格的維持管理が可能
パネケーブ

EBATA

管路事業部

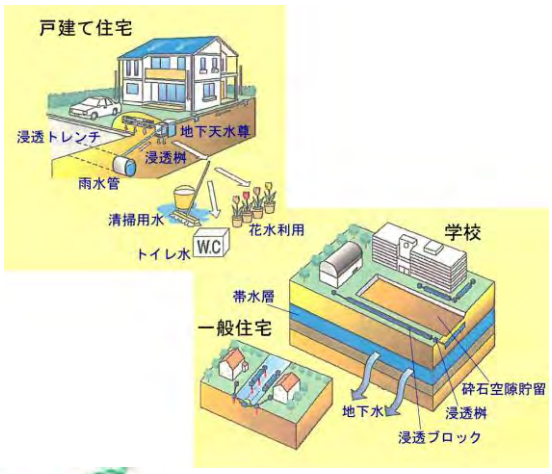
〒125-0041 東京都葛飾区東金町 1-38-2
TEL (03)3600-1522　FAX(03)3600-2090
http://www.ebata.co.jp

雨水貯留浸透システム
『アーキス』

優れた浸透能力により水循環の保全・再生効果をもたらします。

株式会社　協和エクシオ
環境システム事業本部
〒150-0002　東京都渋谷区渋谷 3-29-20
TEL(03)5778-1043　FAX(03)5778-1216
URL：http://www.exeo.co.jp

水環境と
人とのつながりを創出します



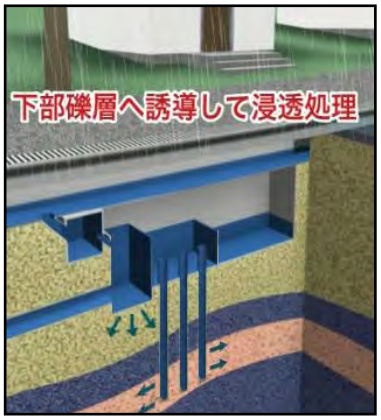
KYOWA 共和技術株式会社
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-10-10
技術部　図師　e-mail：zushi@kyowa-consul.co.jp
TEL：(03)5960-3821
FAX：(03)5960-3844
URL：http://www.kyowa-consul.co.jp/

共和コンクリート工業株式会社

本　社
〒060-0808
札幌市北区北 8 条西 3-28(札幌ｴﾙﾌﾟﾗｻﾞ 11F)
TEL:011-736-0181　FAX:011-736-0187

東京本社
〒112-0006
東京都文京区小日向 4-6-19(共立会館 7F)
TEL:03-3943-4371　FAX:03-3943-7266

『都市の局所的な浸水対策を』
－浸透促進型貯留対策－



株式会社　建設技術研究所
〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1
（日本橋浜町Fタワー）
水システム部　深澤　fukasawa@ctie.co.jp
TEL(03)3668-4494　FAX(03)5695-1886
http://www.ctie.co.jp

『エリアマネジメント』の計画

これからの時代は、開発「つくること」だけではなく、その後の地域の維持管理・運営（マネジメント）の方法までを考えた計画を行い、開発後においても、地域を「育てること」が必要とされています。

＜平成 17 年度土地活用モデル大賞　国土交通大臣受賞プロジェクト＞

株式会社 シグマ開発計画研究所
SIGMA PLANNING INSTITUTE,INC

〒102-0052　東京都千代田区神田小川町 2-3-13 M&C ビル 6 階
TEL:(03)5282-7471　FAX:(03)5282-7488
http://www.spi.co.jp/

都市の水環境を守る 『エスロンレインステーション』

積水化学工業株式会社
環境・ライフラインカンパニー

〒105-8450　東京都港区虎ノ門 2-3-17
水インフラ複合材事業部　梶　kaji007@sekisui.jp
TEL(03)5521-0552　FAX(03)5521-0558
http://www.eslontimes.com/system/items-view/24/

『雨水のコントロールで、豊かで安全な 住環境を創造できる雨水貯留浸透製品』

タキロン株式会社

東京第二工場　技術グループ
Email: kanko01@takiron.co.jp

〒300-0198
茨城県かすみがうら市加茂 5289-1
TEL (029)828-1804　FAX (029)-828-2204
http://www.takiron.co.jp

土に返る　自然に帰る　水が還る

秩父ケミカル株式会社

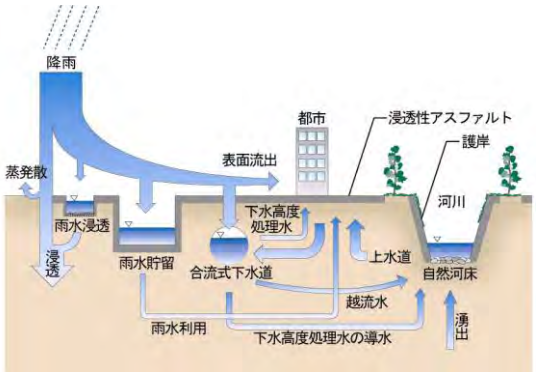
〒101-0021　東京都千代田区外神田 5-2-3
TEL(03)3832-1617　FAX(03)3832-1681
営業開発本部　E-mail : nt@titibu.co.jp
URL:http://www.titibu.co.jp/

ゲリラ豪雨から
市民の安全と財産を守る！
プレキャスト式雨水地下貯留浸透施設

鶴見コンクリート株式会社

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央 3-10-44
営業企画課　岸上　info-tsuru@tsuru-con.co.jp
TEL(045)503-8001　FAX(045)502-5057
http://www.tsuru-con.co.jp/

都市の健全な水循環系再生に向けて

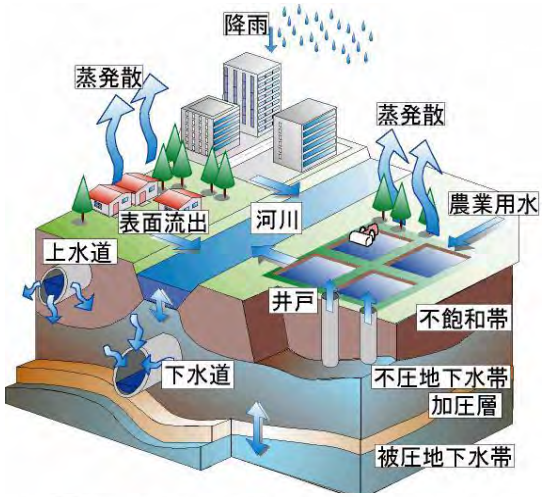


降雨から地下浸透、湧水、河川への流出に至る自然系水循環及び下水道を経由した人工系水循環を表す水循環系シミュレーションモデルを構築し、各種の対策実施による湧水・河川流量の増加効果を分析し、健全な水循環系再生のための最適な計画を立案しています。

株式会社東京建設コンサルタント

本　社　〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-15-6
TEL.(03)5980-2633
URL http://www.tokencon.co.jp/

Challenging mind, Changing dynamics



日本工営株式会社

〒102-8539 東京都千代田区麹町 5-4
河川･水工部（中嶋：a3579@n-koei.co.jp）
TEL(03)3238-8046　FAX(03)3238-8080
http://www.n-koei.co.jp/

地下調整池なら
ウォーターキューブ工法

羽田コンクリート工業株式会社

〒164-0012 東京都中野区本町 4-30-12
営業部　阿部　info-haneda@haneda.com
TEL(03)5328-5124　FAX(03)5328-5130
http://www.haneda.com

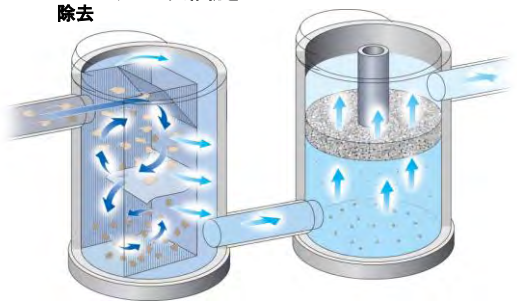
無動力・自洗式のゴミ分離装置

UNIFILTER

― 動力は雨水の流水エネルギー、
目詰まりすることなく 雨水中の「夾雑物除去」を可能にします。―

VS 2枚の誘導板で上下旋回流が発生。ウェッジワイヤースクリーンにより0.5mm 以上の夾雑物を除去

PF VS 型では除去できない微細夾雑物をポーラスコンクリート製のフィルターで除去



雨水貯留施設に流入する雨水排水中の夾雑物を、施設前で除去
雨水の貯留能力が確保され、施設のメンテナンスが容易に

株式会社 ハネックス

〒160-0023　東京都新宿区西新宿 1-22-2
TEL(03)3345-7831　FAX(03)3342-6268
http://www.hanex-grp.co.jp
生産技術本部　二瓶　nihei@hanex-grp.co.jp

人と地球にやさしい環境技術
雨水浸透貯留槽『USTシステム』

国道137号線　雨水浸透施設　2,000 t

お任せ下さい！開発行為の雨水対策

Butsurin 物林株式会社
環境・景観事業部

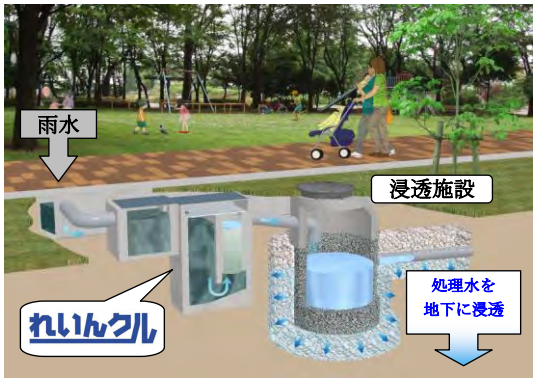
〒136-8543
東京都江東区新木場1-7-22　新木場タワー7F
TEL:03-5534-3602　FAX:03-5534-3639
担当　黒子・齋藤　http://www.mbr.co.jp/

～健全な水循環の形成～

ノンポイント汚濁負荷削減装置

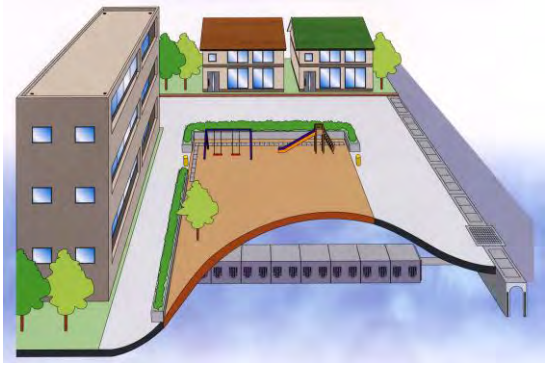
れいんクル

浸透させるその前に！
処理水を貯めて草木への散水に！！



株式会社　ホクコン
〒918-8152　福井県福井市今市町 66-20-2
技術本部　神尾、高島
TEL　0776-38-3804、FAX　0776-38-3752
URL:http://www.hokukon.co.jp/

暮らしに水の潤いを
ー雨水貯留・浸透システムー

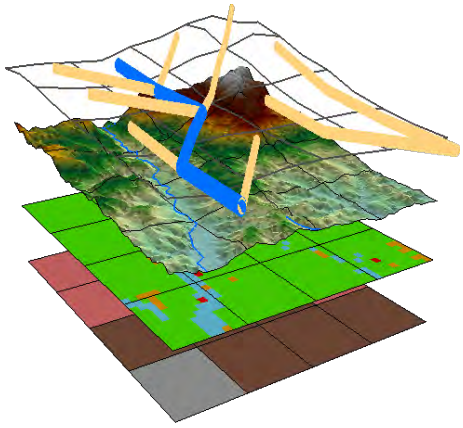


●ボックス型浸透カルバート	●門型浸透カルバート
●プレキャスト遊水池	●U 型浸透カルバート A
●オープン遊水池	●MC 可変浸透側溝

丸栄コンクリート工業株式会社

〒501-6293　岐阜県羽島市福寿町間島 1518
営業本部
TEL(058)393-0700　FAX(058)392-6090
E-mail mar-hsal@maruei-con.co.jp
URL　http://www.maruei-con.co.jp

健全な水循環を目指し、分布型モデルを利用した調査・計画・設計



三井共同建設コンサルタント株式会社

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-4-15
河川計画グループ　木富
sakamoto@mccnet.co.jp
TEL(03)3205-5740　FAX(03)3204-6010
http://www.mccnet.co.jp/

誰にでもできる雨水利用
“魔法”のバケツ
雨 水 く ん

有限会社 安藤電気製作所

〒359-1131
埼玉県所沢市久米 2145-36
TEL/FAX.(04)2923-0872
E-Mail amamizu_kun@yahoo.co.jp
http://www.rsima.org

安全・安心、快適な生活環境を目指して！
【雨水貯留・浸透】シントーホール、シントー側溝

当工業会の製品は、
（社）雨水貯留浸透技術協会
の認定を取得しています。

雨水貯留浸透製品工業会

〒125-0041
東京都葛飾区東金町 1-38-2　エバタ㈱内
事務局：中川
TEL.(03)3600-1521　FAX.(03)3600-2090
URL：http://www.rsima.org/

3R でゼロ・エミッション
雨水浸透・保水・貯留システム
クレイの温暖化対策
エコマックス工法

$CO_2$90%・コスト 30%削減!!

再生材料使用 上水道汚泥70%
第05131049
第05131050

ECOMACS土壌構造安定化緑化基盤材
ソイルプレミックス(SP-M)表層ドレーン材

石川県　リサイクル認定製品
福井県　リサイクル認定製品
滋賀県　リサイクル認定製品

株式会社　エコマック

〒610-0115　城陽市観音堂甲畑 2-6
技術部　飛田務・東宅幹男・山本浩敏
http://www.ECOMACS.COM
hida@ecomacs.com
hitm8012@sage.ocn.ne.jp

関西ポラコン株式会社

事業所：本社工場/大阪営業所/兵庫営業所
大阪営業所
〒531-0072　大阪市北区豊崎 2-5-5
TEL:06-6375-4001　FAX:06-6375-4002
http://www.k-poracon.co.jp
E-mail:o-business@k-poracon.co.jp

大地に水を！！
ポーラスコンクリート舗装・・・パーミアコン

株式会社　佐藤渡辺

〒106-8567 東京都港区南麻布 1-18-4
営業第2部　上利

agari-masaaki@watanabesato.co.jp
TEL （03）3453-7350　FAX （03）5476-0695
http://www.watanabesato.co.jp

好きになる街、活性提案。
NiX
ニックス　[niks]

地域に水をはぐくみ　地域に水をいかす
そして、そっと大地に還す　それが私たちの仕事です

△富山県水墨美術館隣接の公園地下貯留池の設計

NiX 株式会社 新日本コンサルタント
http://www.shinnihon-cst.co.jp

ISO 9001 14001 認証取得

本社：〒930-0142 富山県富山市吉作 910 番地の 1
TEL：(076) 436-2111　FAX: (076) 436-2260
金沢支店/営業所：新川・中新川・射水・高岡・小矢部・新潟・福井・大阪
E-mail:info@shinnihon-cst.co.jp

雨水流出抑制で洪水を未然に防止
ープラスチック式地下貯水槽
「クロスウェーブ工法」ー

施工性・土木安定性が抜群

積水テクノ成型株式会社

〒105-8450　東京都港区虎ノ門 2-3-17
産業用品営業部　土木資材営業所
新井 arai016@sekisui.jp
http://i-front.sekisui.co.jp/sangyou/

地球に優しい
地下貯水槽

私たちは滞水材を使用する
地下空隙貯水槽の研究組織です

- 滞水材と貯水構造物の研究
- 土砂流入抑制対策の研究
- 水質浄化の研究

地下貯水工法研究会
事務局　佐々木
技術主幹　本田

Info<h.sasaki@chikachosui.gr.jp>
Tel.(03)5491-7733　Fax.(03)3700-1814
URL: http://www.chikachosui.gr.jp

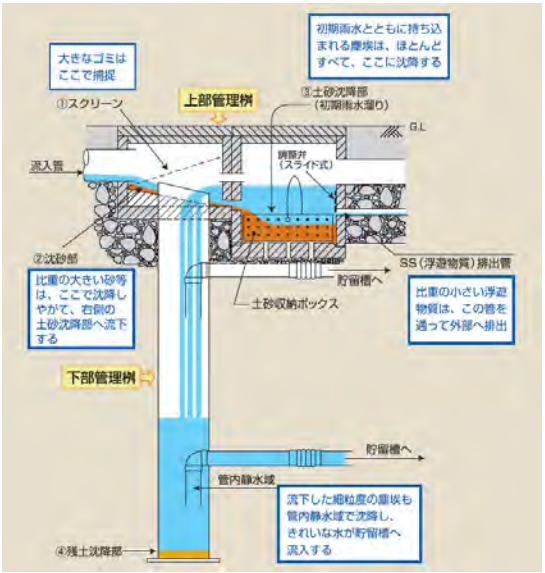
人と水と土のつながりから未来を創造する

建設総合コンサルタント**中央開発株式会社**

〒169-8612 東京都新宿区西早稲田 3-13-5
Tel.(03)3208-3111　Fax.(03)3208-3127
担当：環境防災事業部
URL: http://www.ckcnet.co.jp

ノンダスト

― 除塵管理桝(下図)を組み込んだ地下貯留槽 ―

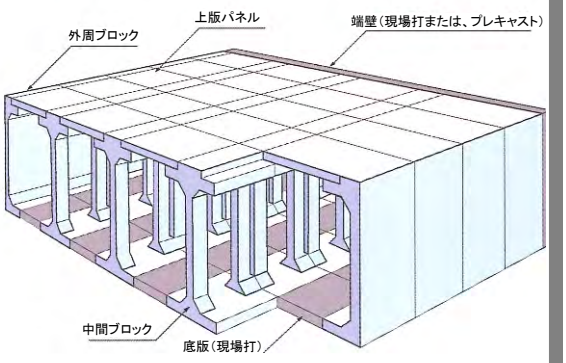


株式会社　トーテツ
問い合わせ：本社営業部　伊藤・久永
〒141-0032 東京都品川区大崎 3-6-11
TEL(03)3493-5911 FAX(03)3493-1470
URL:http://www.totetu.com/
E-Mail :tokyo@totetu.com

雨水対策と雨水の有効利用のために
ー多目的利用が可能な「Ｉ型雨水貯留槽」ー

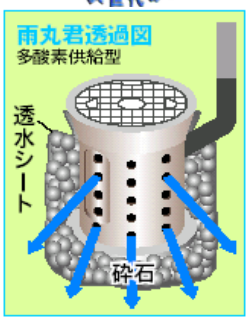
特　徴

- 人命や財産を水害から守ります
- 耐震性に優れ地震に強い製品です
- 施設上部の有効利用が図れます



株式会社　日東
〒350-0280 埼玉県坂戸市千代田 5-7-24
技術部　大山　ooyama@nitto-inc.co.jp
TEL　(049)283-5184　FAX　(049)289-1167
http://www.nitto-inc.co.jp

― 地球環境のクリエイター ―



日本雨水浸透施設工業会
〒241-0005
神奈川県横浜市旭区白根 7-10-15-101
岡村建興㈱内　津田
TEL 045(959)5092　FAX 045(959)6489
URL:http//www.amemarukun.com/

雨が降ったら防災施設
天気になったらスポーツ施設

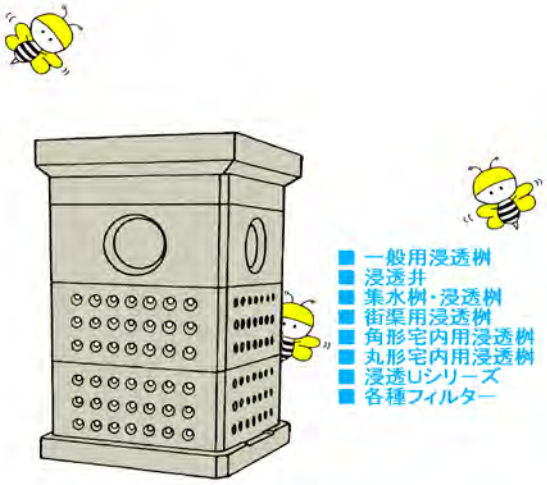
ソイレックスは、街の安全に貢献します。

株式会社ハイクレー

〒346-0004
埼玉県久喜市南 5 丁目 4-414-41

担当者：本社技術営業課　持田　隆司
TEL（0480）23-3809　FAX（0480）23-6104
HP　http//www.highclay.co.jp
E-Mail　info@highclay.co.jp

小 さ な 施 設 ＝ 大 き な 力
～雨水浸透製品・ハニホール～



パ ス キ ン 工 業 株 式 会 社

〒320-0071　宇都宮市野沢町 640-4
製品部・土田　seihin@passkin.co.jp
TEL（028）665-1621　FAX（028）665-1623
http://www.passkin.co.jp

プラスチック製雨水貯留浸透槽のパイオニア
『シンシンブロック槽』

株式会社　林物産

〒104-0032　東京都中央区八丁堀 4-13-5
URL：　http://www.hayashibussan.co.jp
TEL：(03)3553-3000　FAX：(03)3553-3015
E-mail：884@hayashibussan.co.jp

浸透や貯留をサステナブルに！

● 管口フィルター
VP、VU、ポラコン管、HP など共用できます

管　径	100	125	150	200
8ﾒｯｼｭ(中目)	○	○	○	○
5ﾒｯｼｭ(粗目)	○	—	○	○
管　径	250	300	350	400
8ﾒｯｼｭ(中目)	—	—	○	—
5ﾒｯｼｭ(粗目)	○	○	—	○

全て在庫対応しています

● かご型フィルター
フタ下やますの中段にも

● L型雨水ます用かごフィルター

いずれもステンレススチール製です

有限会社　プラネッツ

〒350-1103　埼玉県川越市霞ヶ関東 5-13-25
TEL（049）233-9221 / FAX 049-233-9246
planets@mocha.ocn.ne.jp

雨水の「流出抑制」と「有効活用」の両テーマに
貢献。街と暮らしを豊かに潤します。

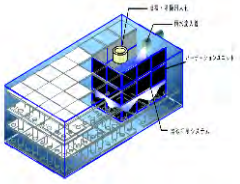
ジオボックス

株式会社ブリヂストン

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目6番6号
八重洲センタービル9F
建設資材販売促進部
TEL：(03) 5202-6871　FAX：(03) 5202-6874
URL：http://www2.bridgestone-dp.jp/civil/

古河の環境技術で水循環の健全化を・・

プラスチック製　雨水貯留浸透システム
ハイドロスタッフ®
furukawa hydrostuff system



堆砂抑制システム⇒拡散抑止効果約90%(※)

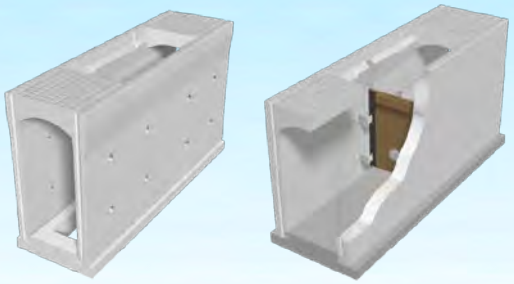
堆砂抑制システムあり　　堆砂抑制システムなし

※弊社実験値であり
保証値ではありません。

古河電気工業株式会社
〒100-8322 東京都千代田区丸の内 2-2-3
エネルギー・産業機材カンパニー
産業機材事業部　管路製品部
TEL (03)3286-3990　FAX (03)3286-3454
http://www.furukawa.co.jp/hydro/

古河電工

～ 水が大地に還れる『まち』へ ～
ユニバーサルデザイン対応型



浸透ユニバーサル側溝（浸透ユニバス）　流出抑制ユニバーサル側溝（流出抑制ユニバス）

※函渠タイプも用意しております。

ホクエツ

〒984-8603
宮城県仙台市若林区卸町東 1-1-52
TEL (022)235-2311　FAX (022)235-2314
http://www.hsnet.jp/

雨水処理の悩みを解消します！
(浸透施設の計画、現地浸透試験、解析、設計)

北海道ポラコン　株式会社

〒064-0804 札幌市中央区南４条西６丁目８
晴ればれビル7F
技術部　檜山　秀光　hiyama@poracon.jp
TEL：(011)251-4566　FAX：(011)251-4689
URL：www.poracon.jp

水と緑に囲まれた美しい安全な環境づくり
自然にやさしいコンクリート
それが「ポラコン」です。

ポラコン工業会

マテラス青梅工業株式会社内

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 1-8-17
TEL (03)3303-0952 担当 技術部 古田健二
e-mail k.furuta@materras.co.jp
http://www.poracon.gr.jp/
http://www.materras.co.jp/

『より早く・より安全に・そしてよりコスト削減を
ご提案する. . . . . コンクリート二次製品』
ハニカムボックス

松岡コンクリート工業株式会社

〒503-0111 岐阜県安八郡安八町西結 1196
営業部 : 西垣
技術部 : 呉 cmc@cm-con.co.jp
TEL:(0584)62-5007 FAX:(0584)62-5265
http://www.cm-con.co.jp

リサイクルPET製品

MC グリーン 雨太郎®

MA-1工法

環境調和型企業
ミクニプラスチックス株式会社
〒532-0001 大阪市淀川区十八条3-14-17
TEL. 06-6395-4025 FAX.06-6395-4010

http://www.mikunipla.co.jp

アクアプラ工法

アクアトラップ

株式会社明治ゴム化成

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-22-35
合成樹脂営業チーム 稲垣
TEL:(03)5338-4693 FAX:(03)3361-4957
E-mail:y-inagaki@meiji-rubber.co.jp
URL :http://meiji-rubber.co.jp

総合治水対策で
安全な街づくりを！

M. V. P. 雨水貯留施設

株式会社ヤマックス

熊本県熊本市水前寺 3-9-5
Tel:(096)381-6411　Fax:(096)383-1654
HP:http://www.yamax.co.jp/
E-mail:wbmaster@yamax.co.jp

河川の氾濫・都市型水害から、都市環境を守るために…。
プラスチック製　雨水貯留浸透槽

リス レイン スタジアム

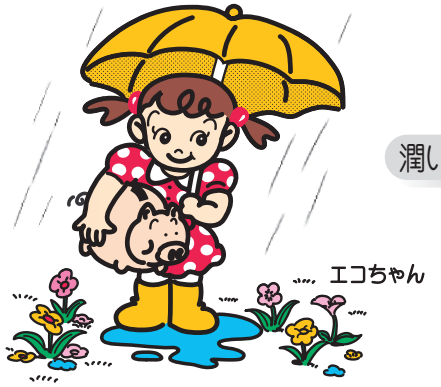
リス興業株式会社

〒504-8702
岐阜県各務原市前渡東町 4－222
TEL 058-386-0050　FAX 058-386-0053
URL:http://www.risu.co.jp/

「うるおいのある都市」をめざして…
期待される雨水貯留浸透技術

都市河川の氾濫を防止します

雨水を大地に還元します



潤いと水辺景観を創出します

ARSIT

社団法人 雨水貯留浸透技術協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町３丁目７番１号（半蔵門村山ビル５階）
TEL 03-5275-9591　FAX 03-5275-9594
URL http://www.arsit.or.jp　E-Mail info.arsit.or.jp

交　通

地下鉄有楽町線：麹町駅１番出口より徒歩４分
地下鉄半蔵門線：半蔵門駅１番出口より徒歩３分
地下鉄半蔵門線・有楽町線：永田町駅５番出口より徒歩 10 分
地下鉄銀座線・丸の内線：赤坂見附駅２番出口より徒歩 16 分
ＪＲ 中 央 線 ：四ツ谷駅より徒歩 14 分